

平成 21 年度 東京都立園芸高等学校経営計画（定時制課程）

1. 目指す学校

名実ともに日本を代表する農業の専門高等学校を目指し、そのために以下の学校づくりを進める。

- (1) 母校に誇りと強い愛校心を抱く生徒を育てる学校。
- (2) 礼儀正しく社会性と規範意識に富む生徒を育てる学校
- (3) 先進的な制度を導入し、積極的に課題解決を図る学校
- (4) 将来農業や農業に関連する分野で活躍するスペシャリストを育てる学校
- (5) 環境保護・改善に積極的に行動できる生徒を育てる学校
- (6) 都民や地域住民の期待に応え、信頼される学校

2. 中期的目標と方策

- (1) 魅力ある授業を追及した教育課程の改善、授業、評価の改善・充実
 - ①学習内容の充実、指導方法の工夫、学習評価の改善を図る
 - ②園芸技術専修生制度、三修制を活用して個に応じたカリキュラムを編成・実施する。
 - ③生徒一人ひとりの能力に応じた基礎学力の向上を図る。
 - ④教員の生徒理解の深化に基づく専門的な力量の向上を図る。
- (2) 園芸高校の特色を育てる専門教育の充実・向上
 - ①恵まれた自然環境を活用して、生命を慈しむ豊かな心を育てる教育を進める。
 - ②将来のスペシャリスト育成を目指して、園芸科の専門性を追求する。
 - ③農業クラブ活動を充実させて生徒活動の活発化を図る。
 - ④地域社会の要望に応じて、行動する意欲と技術を育てる。
- (3) 愛校心や連帯感を育てる部活動、学校行事の活発化
 - ①活動の成果を対外的に競う場面に積極的に参加させて、学校を代表する責任感と達成感を味あわせる。
 - ②生徒会、農業クラブ、ホームルーム、部活動の力を結集して園芸展を成功に導く。
- (4) 生徒一人ひとりの個性と希望に沿った進路指導の実現
 - ①進路指導計画を全ての教職員が理解し、各学年に応じて実践する。
 - ②変化に対応して、進路開拓を絶やすことなく最新の情報を提供するとともに、進路指導力の向上に努める。
 - ③企業、大学等との連携を推進して、生徒の進路意識の成長を図る。
- (5) 生活指導の充実。
 - ①基本的な生活習慣と規範意識を身につけさせて、落ち着いた学習環境を保持する。
 - ②問題行動発生を予防できるよう、生活指導部と学年団、園芸科の連携に基づく指導を展開する。
 - ③全ての教職員が生徒理解に基づくカウンセリングマインドを意識して、学校全体の教育相談機能の向上を図る。
- (6) 地域貢献活動の組織的な実施。

- ①特定非営利法人(NPO)「園芸アグリセンター」や町会、区役所、地域の団体、産業界との関係を緊密化して、生徒の活動機会を計画的に設定する。
 - ②農業クラブ組織を活用して、他校生徒と地域の小中学校との連携活動を進める。
- (7) グリーン・ペンタゴン構想。
- ①緑豊かで生命を育む園芸高校をつくる。
 - ②地域文化を醸成する園芸高校をつくる。
 - ③環境負荷を軽減する園芸高校をつくる。
 - ④心のふるさととなる園芸高校をつくる。
- (8) 海外との交流、農業クラブの連携等を活用した国際理解教育の推進。
- ①海外からの訪問者を積極的に受け入れて、生徒との交流機会を設定する。
 - ②教育課程に位置づけた海外農業実習を実施する。
- (9) 教育財産や予算の有効活用
- ①計画的な予算執行を行い、費用対効果の観点に基づいた教育活動を進める。
 - ②諸費の節約を徹底し、予算の有効活用を進める。

3. 今年度の目標と取組み

(1) 全校の数値目標

- ①退学生徒数を定員の8%以内に収める。
- ②欠点保持者数を昨年度比20%削減する。
- ③問題行動の指導回数を昨年度比20%削減する。
- ④遅刻生徒数を昨年度比30%削減する。
- ⑤卒業予定者の進路内定100%を実現する。
- ⑥在籍率50%を保ち、給食の喫食率80%を目指す。
- ⑦図書貸し出し数を10%増加し、不明図書を30%削減する。
- ⑧農場生産物売り上げを30%増加させる。
- ⑨生徒の学校満足度80%以上を実現する。
- ⑩高熱水費を3,500万円以内に抑える(約10%減)。

(2) 今年度の取組み

① 教務、学習指導

- ・意欲・関心・態度を重視した学習評価基準を明確にして、分かる授業を展開する。
- ・少人数による授業の利点を最大限に活用して、生徒一人ひとりの能力に細かく対応した授業を展開する。
- ・学期ごとの補習、補充授業を実施し、生徒の欠点回復を支援する。
- ・学習意欲を高める教材研究、指導方法の工夫、生徒による授業評価を授業改善に役立てるための校内の実施、校外の研修への参加を進める。
- ・教科指導力で生徒集団を統率・指導できる教員集団を目指す。
- ・実験・実習を効果的に設定して、体験的に理解する授業を進める。
- ・専門学科では良質の生産物を多量に生産させることを目指し、積極的に販売し地域社会の評価を求める。
- ・教科に関連した職業資格取得の指導を充実させる。
- ・教科指導の発展・展開に農業クラブ活動を活用する。

- ・学習成果を地域貢献活動に積極的に活用する。
- ・F F A（全米農業学生機構）と連携した海外農業実習を教科活動として実施し、単位認定を行う。
- ・農業クラブ全国大会出場競技における入賞を目指す。

② 生活・進路指導

- ・教職員自ら挨拶を励行し、生徒が自発的に挨拶できる雰囲気作りを促進する。
- ・生活時程、特に授業、ホームルームの開始時刻厳守を厳密に実行し、遅刻指導の強化を図る。
- ・授業中の携帯電話使用、飲料の放置、服装、身だしなみの指導を統一して組織的に実施し、教職員に対する暴言、あからさまな指導拒否については徹底的に指導する。
- ・スクールカウンセラーと連携して、生徒の内面を深く理解することを基本にした丁寧な生徒指導を実践する。
- ・学校ごとの推薦やAO入試に細かく対応した作文指導力を向上させ、繰り返した指導によって進学率を高める。
- ・就職を希望する会社を十分に調査し、早期退職に陥らないよう綿密な指導を行う。
- ・産業界や地域の商店会と連携してインターンシップを推進する。

③ 学校運営

- ・企画調整会議に教職員の意見や考えが反映されるよう、校内各組織を運営する。
- ・教職員が本校の歴史や歴史的な遺産、貴重な植物等に理解を深め、生徒や保護者、地域住民に発信できるよう努める。
- ・ホームページによる学校PRの充実を図る。
- ・予算執行においては各部、各科の担当者が適切に管理し、極端な執行の遅れ、使いすぎが生じないように努める。
- ・都民対応は常に親切・丁寧を心がけ、電話に出たときは必ず自分の名を名乗るよう努める。

④ 特別活動

- ・部活動においては昨年より1ランク上の実績を残す。
- ・専門部は常にプロジェクトとして成長するよう、課題意識を持つ。
- ・園芸展ではより一層の内容充実を目指し、来校者の評価を得る。

⑤ 地域貢献活動

- ・科目「奉仕」を活用して各科や学年、ホームルームで企画する地域貢献活動を支援する。

⑥ グリーン・ペンタゴン構想

- ・地域の緑化活動の発信基地となるよう、緑化植物の生産と普及、活用方法の研究を行う。
- ・農場と校内の通路を整備し「緑豊かな風景」として地域のモデルになるよう努める。